



# ☺ 雨ニモマケズ

2月24日

## 「地域で子育てするバリ」

校長 原 直樹

以前にお世話になったT校長先生、現在はご退職され、趣味の域を遙かに超えた「コーヒー焙煎」をいらっしゃいます。世界のコーヒー豆を取り寄せ、プロ顔負けの焙煎をされています。注文をしますと、数日後に料金票と豆の解説を添付してクリップポストで送ってくださいます。T校長先生のコーヒーにしてから、コーヒーが苦手だった妻もコーヒーを飲むようになりました。

「バリ アラビカ 神山G1 ニュークropp」という豆の解説に「地域で子育てするバリ」という記事がありました。

バリでは、子育ては地域で行うもの、子どもは地域の宝物という考え方が根付いています。困窮して食べるものがないときは、隣近所で食べさせてもらえるし、両親が出稼ぎに行ったり、両親が仮に亡くなったりしても、子どもは近隣でめんどうをみます。ですから、保育所などは必要がないのです。わざわざ何週間も隣近所の家で寝泊まりさせることもあります。そのため、子どものない夫婦も、子育てが経験できます。

生まれたすぐには、特に手厚く近隣で支援するようにしていて、母親がマタニティーブルーにならないように支えています。

コーヒー農園でハンドピック（手で選別する作業）する労働者は、女性が多いのですが、きっと子育て真っ最中の方もあり、地域の人々に子育てのお世話になりながら働いていることでしょう。その地域力のおかげで、きちんと選別された高品質の豆が、私の手にも届けられているのです。そんな感謝を込めて焙煎し、お届けします。

私はこの記事を読んで、日本はこういうのがなくなってしまったなあ、心の中でため息をつきました。きっと、こうやって子育てをしていると、子どもたちはいろんな大人から多様な考えや知恵を学ぶのでしょう。子供同士の小さなもめ事や、それを解消する力、何かを共に行う喜びなどを生活の中で学び、たくましく成長していくのです。

今、3年生は、3月9日の卒業式に歌う合唱曲を練習しています。彼らの美しい歌声が、教室やランチルームから聞こえてきます。曲は、RADWIMPSの「正解」です。この曲の歌詞に次のような部分があります。「ああ答えがある問いばかりをおそわってきたよ だけど今日からは 僕だけの正解を いざ探しにゆくんだ・・・」

何でもお膳立てをして、不便をなるべく与えないように、不安にならないように最善の気を配り、答えがある問いだけを考えさせてしまっていないか？ 私は自分自身に問うてみます。今の日本の大人達の構えは、どうしてもそうになっているのではないのでしょうか。

3年生の生徒たちは、コロナのせいで、中1の4月、当たり前前のスタートができず、3年間マスクで過ごし、数々の制約の中での中学校生活を送ってきました。しかし、彼らには、不憫だったとか、そんな大人のマイナス思考をぶつけるのではなく、コロナの中でも、いろんな工夫をして君たちなりの充実した中学校生活を送ることができたねと言ってあげたいです。

バリの大人達がおおらかに子育てをしているように、何かが起こったら、それを乗り越えてたくましさを育むチャンスぐらいの態度を子どもに示し、大人が歩み寄り、協力して子育てをしていきたいです。